



金融経済教育だより

令和7年10月21日

清水小学校

第2号

【1年生の実践】

9月に道徳科「ぼくのしごと」の学習をしました。この教材は、「ぼく」がお風呂掃除をすることを通して、進んで家族のために働くことの良さを感じ取り、楽しく仕事をするという内容です。働くことは、集団や社会の一員として、自分の役割を果たすという意味を持ちます。今後、12月の生活科「ありがとうがいっぱい」の学習につなげ、「お手伝いや仕事をしてよかった」と思った経験を出し合いながら、積極的に仕事の分担を引き受け、できることは進んでする習慣を身に付けるようにしたいと思っています。



10月2日には、銀行の方に出前授業をしていただきました。絵本でお金とはどういうものかを知り、クイズを通してお金の種類を楽しく学ぶことができました。本物の千円札を観察する際には、子どもたちは目を輝かせてお札の秘密を探っていました。

【ご家庭で実践されている「物を大切にする工夫」のアイデア紹介】

7月に保護者の皆様にご回答いただいたアンケートから、ご家庭で実践されているすてきな取組を紹介したいと思います。

- 物を擬人化して名前をつける。
- 物にも人間と同じように命があり、使い終わったら物のお家に返してあげることを約束している。
- 物の管理の方法を伝えている。(定位置に返す。管理できる量について話す。)
- 家族が働いているおかげ、物を作ってくれた人のおかげで、いろいろな物が買えていることを伝えている。
- お手伝い1回10円として、欲しい物の目標金額までしっかり貯めさせている。欲しい物を手に入れるることは簡単じゃないことに気付いてほしいから。
- 生活に必要な物以外は、お小遣いで購入させている。自分にとって必要な物かどうか考えて購入するように伝えている。自分のお小遣いで購入した物は大切に使っている物が多いように感じる。
- 買う前に本当に必要か考える。迷ったら買わない。親が手本を見せる。
- お小遣い帳をつけて、管理させている。
- 兄弟やいとこのお下がりを使う。頂いた物に感謝したり、エコライフについて話したりする。
- 空き箱を工作に再利用したり、着られなくなった服や肌着などを人形の服や掃除等に使ったりする。
- 物が壊れても、補修・修理が可能であれば買わない。その物を使い切ってから新しい物を買うようにしている。(壊れるまで同じ物は買わない。食材を使い切る家事の様子を見せる。)